

留学先国名 : カナダ

留学先学校名 : ガスタウンビジネスカレッジ

留学期間 : 平成 27 年 5 月 13 日 ~ 平成 27 年 12 月 11 日

カナダでの 7 か月間の留学生活では、とても充実した生活を送ることができたと思います。留学では、3 週間の語学学校、3 カ月のビジネス学校後に、3 カ月のインターンシップ、1 週間のボランティアをしました。ホームステイでは日常会話、インターンシップでは専門用語、ビジネス用語を学ぶことができました。

語学学校では、ブラジル、メキシコ、イラン、サウジアラビア、韓国、台湾、いろんな国の方と出会いました。韓国や中国・台湾出身の友達は一見日本人にも見えますが、会話したりお出掛けする中でそれぞれの国民性や価値観の違いがあることに気づきました。また新しい友達ができると自分の友達に紹介し合ったりして、友達の輪がどんどん広がっていきました。学校内では、English Only のルールがあったので、日本人の友達と話す際も英語を使うことを心掛けて、お互いの意識を高め合いました。

インターンシップはバンクーバーの空港で 13 週間実施しました。業務内容は主に、お客様が自動端末機を使ってするセルフチェックインのお手伝いをしたり、空港内をご案内しました。お客様の中には、急いでいる方、お子様連れの方、車いすが必要な方がいらっしゃり、お子様を抱えている場合は、代わりにカーシートをバッグに入れたり、バッグにタグを付けるなど、その方に合ったお声かけやお手伝いをしました。そのため、お客様が必要とすることは何か、瞬時に判断する力が以前より身についたと思います。

留学前は、すぐ人と比べ、自分の欠点を見て落ち込むことが多くありました。ですが、留学している間に、比べてもそこから自分の足りない部分をどう補うかを考えて自分なりに頑張ろうと思えるようになりました。現地の人たちが、自分は自分、人は人というようにそれぞれの考えを尊重し、みんなそれぞれ自由にのびのび生活している感じが影響されたのだと思います。また、「自分から」の姿勢が身につきました。多国籍国家のカナダの空港では現地の方々が話す英語でも違うアクセントが何種類もありました。私自身も違うアクセントがあるため、インターンシップ中は英語を話しているにも関わらず、「英語を話せる人と呼んでほしい」と言われることもあり悔しい思いもしましたが、異なるアクセントに慣れ、自身の英語に磨きを掛ける絶好の場でしたので、積極的にお声かけすることを毎日の目標にしていました。帰省する方にはその地の有名な食べ物や場所を聞いたり、旅先でのプランを聞かせてもらうなど、楽しく会話することもできました。

私は 7 か月間ホームステイをしました。私のホームステイ先には、カナダ人のお父さん、ベトナム人のお母さんと 2 歳の双子が居ました。初めてダウンタウンに行く際は私が通うことになる学校や通学路を案内しながら、車で送ってくれて第一印象から、気にかけてくれる優しい家族でした。ですが、当初は英語で会話するたびにドキドキしていました。英会話がままならないうえに、ベトナム出身のホストマザーの英語に慣れるのに苦戦しました。学校から帰ると毎日、学校はどうだった？ なにか変わったことは？ とよく話しかけてくれるホストマザーでしたので、それが嬉しくて、もっと話したいと言う思いから、逃げずに何回も聞き直すなどして毎日毎日話しました。食事の面では一つ、カナダの B B Q とは日本のようにお肉ではなく、ホットドックだと

いうことには驚きました。ですが、主には野菜たっぷりのお料理やパスタなど美味しいお料理ばかりでしたので、今日の夕食は何なのか毎日楽しみでした。また、私が風邪気味のときはホストファザー、マザーとも気にかけてくれ、私のためにしょうが茶を作って体調を気遣ってくれました。ビジネスカレッジに通いだした際、授業内容が難しいうえに理解するのも大変だという“分からないことやプレゼンテーションがあれば力になりたいから言ってね”とホストファザーが優しい声を掛けてくれ、涙が出そうなくらい嬉しかったです。本当の家族のような温かみを感じるホストファミリーでした。帰宅すると双子ちゃんが私の名前を呼びながら駆け寄ってきてくれ、庭でかけっこしたり一緒に絵本を読んだりしました。小さい子と言っても私よりも断然きれいな英語を話すため、遊ぶ中でも学ぶ英語が多くあり、発音を直してくれたりもしました。休みの日には、家族とお散歩、魚釣りに行ったり、B B Qやハロウィン、早めのクリスマスには親戚皆が集まって、大きなツリーと一緒に飾りつけた後は一緒にターキーや豪華なお料理を囲みました。ホストファザーが音楽の先生ということもあり、公演を見に行ったり、B B Qの際には演奏してくれ大盛況でした。ハロウィンは家族・親戚みんなが仮装してキャンディーをもらいにご近所を歩いて回りました。その親戚は時間があればよく家に訪れ、気軽にお話ができる方々でしたので、バンクーバーのおすすめのレストランや趣味・お寿司の話で盛り上がり、一緒にバドミントンをしてホストファミリーだけでなく親戚にも良くしてもらいました。他には、中国、韓国、台湾、パキスタン、サウジアラビア、スイス、カナダ出身のホストメイトも居て、普段は夕食を一緒に食べながらお話したり、夜遅くまでお互いの母国語を教え合ったり、休みの日は一緒に映画、夏には花火を見に行くなど、みんな親しみやすいホストメイトでした。また、インターンシップのインタビューに受かったことを報告した時は、ホストファミリー、ホストメイト皆が自分のことのように喜んでくれ、嬉しさが倍増しました。

最終日の夕食、何が食べたい？と聞かれホストファザーが大好きな“お寿司”と言うと、お気に入りのお寿司屋さんに親戚と一緒に連れて行ってくれました。ホストファザーが最後の夕食だねと言うので、その時はすごく寂しく感じましたが、私がおすすめしたお料理をみんなで分け合っにぎやかにおいしくいただき最後に良い思い出ができました。“一緒に日本に行って良い？”と言う双子の姉と、私が日本に帰るということがどうということなのかまだ分からない弟に、“また絶対会いに来るからね、日本にも来てね”と約束しました。

日本に帰ってきてからは、スカイプでお話したりクリスマスカードを送ったりして、頻繁に連絡を取り、今でもお互い出来事を報告します。

留学前、英語は、文法・連語が苦手で、ネイティブと会話することはできませんでした。ですので、留学前は通学時に電車で単語帳を開くことを習慣付け少しの時間をも無駄にしないようにしました。また、文法に力を入れようとグラマーの授業を集中して受け、毎週の小テストにも力を入れていました。カナダではその積み重ねがあったおかげで、習った文法を使える場面がたくさんありました。

現在は日本の航空会社に入社することが目標です。そして、カナダでたくさんの楽しい思い出と共に身に付けた英会話力で大阪を訪れる外国の方を温かくお出迎えしたいです。